第９節　青果物の作付・価格等動向と消費者ニーズの把握

以下，作付面積・収穫量・出荷量は青果物生産出荷統計，園芸作物統計による。市場の入荷量・価格は仙台市中央卸売市場年報，東京都中央卸売市場年報による。

1　きゅうり

（1）作付面積，出荷量

きゅうりの需要は減少傾向であり，全国的に作付面積も減少している。県内の平成16年の出荷量は平成７年比で85％となっている。

表2-9-1　きゅうりの作付面積と出荷量推移

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	17,400	15,200	14,800	14,400	14,100	13,700
	収穫量（t）	826,500	766,500	735,500	729,200	684,100	672,900
	出荷量（t）	692,600	644,500	616,400	612,400	572,200	566,100
宮城県	作付面積（ha）	633	587	560	543	524	516
	収穫量（t）	22,200	21,500	21,000	20,700	18,700	19,200
	出荷量（t）	17,600	17,300	16,900	16,600	14,700	14,900

（2）入荷量，販売価格

仙台市場における県内産きゅうりのシェアは高く，４月から10月までは80％を越えている。抑制と促成の谷間で県内産が少なくなる12月から２月の主な産地は高知県，宮崎県等となっている。東京市場での宮城県産シェアは，平均３％程度にとどまるが，全体の平均価格より比較的高値で取引されている。特に12月の県内産は東京市場の方が高い。価格は，１月をピークに緩やかに下降し，６月から７月が最も低く，８月以降上昇していく。

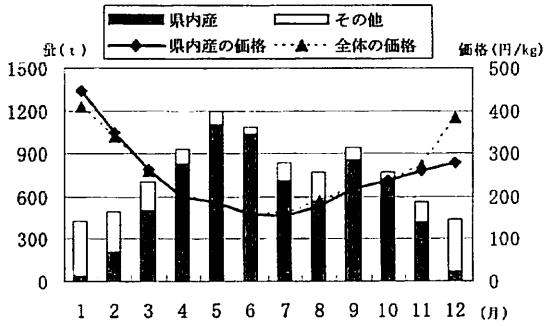

図2-9-1　きゅうりの月別入荷量と単価推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

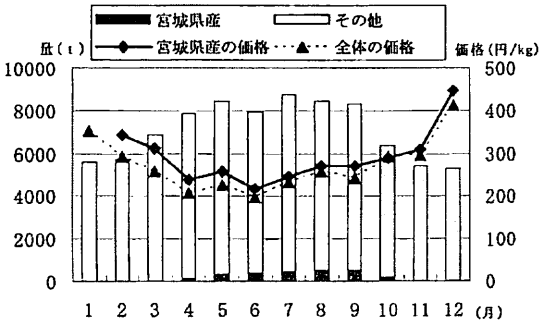

図2-9-2　きゅうりの月別入荷量と単価推移
（平成14～16年平均：東京都中央卸売市場）

表2-9-2　きゅうりの入荷量と平均価格の推移（仙台市中央卸売市場）

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全体	入荷量（t）	10,890	9,252	9,424	9,290	8,783	8,970
	平均価格（円/kg）	240	232	212	223	231	227
県内産	入荷量（t）	8,020	7,262	7,460	7,331	6,570	6,632
	平均価格（円/kg）	225	204	187	197	205	220

2　トマト

（1）作付面積，出荷量

作付面積が減少している園芸品目が多い中で，トマトはほぼ一定の作付面積を保っている。近年，大型の養液施設による栽培が拡大しており，県内の平成16年の出荷量は平成７年比で156％と増加している。

表2-9-3　トマトの作付面積と出荷量推移

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	13,700	13,600	13,600	13,300	13,200	13,100
	収穫量（t）	753,100	806,300	797,800	784,900	759,900	754,300
	出荷量（t）	657,900	708,500	699,800	688,600	669,000	665,200
宮城県	作付面積（ha）	210	218	214	213	215	214
	収穫量（t）	5,730	7,500	7,890	7,950	7,980	8,410
	出荷量（t）	4,380	6,010	6,420	6,490	6,690	6,840

（2）入荷量，販売価格

仙台市場における県内産トマトのシェアは以前より高くなってきているが，最も高くなる11月で50％程度であり，その他の月は20～40％と低い。主な産地は栃木県，熊本県等となっている。

価格は，一時期低迷していたが近年上昇し，全体の平均価格と県内産の価格がほぼ等しくなった。時期別では６月が最も低く，３月と11月が高い。

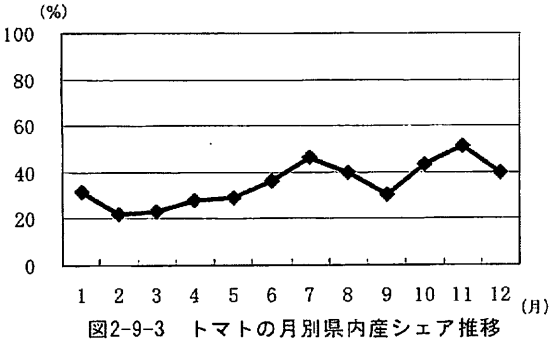

図2-9-3　トマトの月別県内産シェア推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

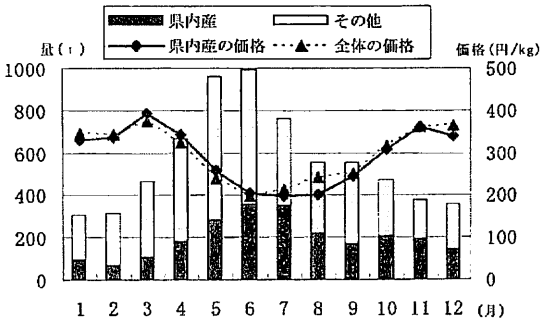

図2-9-4　トマトの月別入荷量と単価推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

表2-9-4　トマトの入荷量と平均価格の推移（仙台市中央卸売市場）

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全体	入荷量（t）	6,165	6,741	6,812	6,687	6,849	6,868
	平均価格（円/kg）	296	254	260	288	278	300
県内産	入荷量（t）	1,478	1,774	2,308	2,532	2,571	2,757
	平均価格（円/kg）	264	245	244	276	274	298

3　いちご

（1）作付面積，出荷量

いちごの作付面積は，全国・県内とも減少傾向が続いている。

県内の平成16年の出荷量は単収が増加していることにより，平成７年比で102%となっている。

表2-9-5　いちごの作付面積と出荷量推移

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積(ha)	8,310	7,450	7,430	7,360	7,240	7,000
	収穫量(t)	201,400	205,300	208,700	210,500	202,900	198,200
	出荷量(t)	182,700	186,300	189,600	191,200	183,200	179,500
宮城県	作付面積(ha)	254	219	207	203	195	193
	収穫量(t)	6,230	6,450	6,450	6,670	6,540	6,440
	出荷量(t)	5,870	5,990	6,020	6,260	6,140	5,990

（2）入荷量，販売価格

仙台市場における県内産いちごのシェアは夏秋期を除くと60～80%と高い。夏秋期の産地は大半がアメリカ産であり，冬春期の宮城以外の主な産地は佐賀県，長崎県等となっている。

価格は，数量が極めて少ない夏秋期を除くと出始めの11月とクリスマスを迎える12月が高いが，近年やや低下してきている。

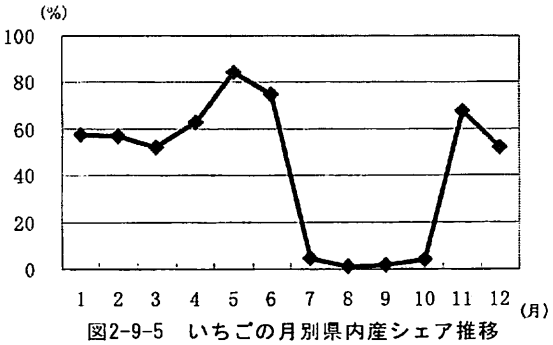

図2-9-5　いちごの月別県内産シェア推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

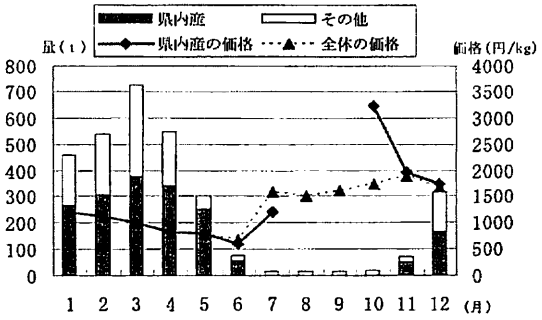

図2-9-6　いちごの月別入荷量と単価推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

表2-9-6　いちごの入荷量と平均価格の推移（仙台市中央卸売市場）

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全体	入荷量（t）	3,540	3,366	3,229	3,300	2,884	2,707
	平均価格（円/kg）	1,117	1,157	1,116	1,062	1,100	1,029
県内産	入荷量（t）	1,937	1,912	1,878	1,894	1,741	1,655
	平均価格（円/kg）	1,063	1,128	1,109	1,047	1,085	994

4　そらまめ

（1）作付面積，出荷量

作付面積が減少している園芸品目が多い中で，全国での作付面積はここ数年増加してきているが，県内では若干であるが減少の傾向が見られる。

県内の出荷量は，平成14年以降減少し，平成16年は4～5月の乾燥やウイルス病等の影響により，平成15年比71％となっている。

表2-9-7　そらまめの作付面積と出荷量推移

		H8	H10	H12	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	1,399	1,572	1,497	2,510	2,480	2,760
	収穫量（t）	14,882	14,915	16,349	21,200	20,500	23,200
	出荷量（t）	13,356	11,999	13,352	16,600	16,300	16,700
宮城県	作付面積（ha）	97	113	114	129	126	120
	収穫量（t）	1,023	1,146	1,241	1,440	1,300	966
	出荷量（t）	927	1,070	1,169	1,320	1,180	837

（平成８年，10年，12年は野菜生産状況表式調査。平成14年以降は園芸作物統計。）

（2）入荷量，販売価格

仙台市場における県内産そらまめはほとんど６～７月のみの出荷であり，この時期のシェアは70～100％ときわめて高い。この時期以外の県産の取扱はほとんどないが，仙台市場では，５～６月を除くとそらまめの取扱量そのものが少ない状況である。東京市場では，６月に集中して宮城県産が取り扱われており，６月のシェアは50％となっている。

価格は，えだまめが大量入荷する時期になるとかなり低下するが，東京市場の方が若干高く取引されている。

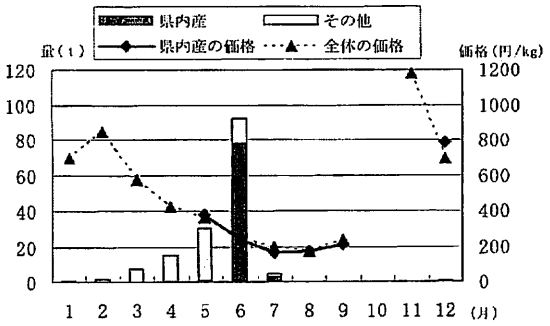

図2-9-7　そらまめの月別入荷量と単価推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

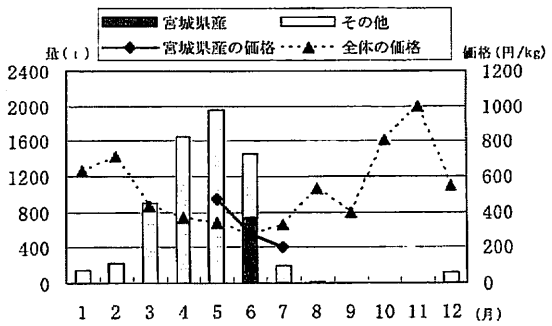

図2-9-8　そらまめの月別入荷量と単価推移
（平成14～16年平均：東京都中央卸売市場）

表2-9-8　そらまめの入荷量と平均価格の推移（仙台市中央卸売市場）

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全体	入荷量（t）	146	167	140	141	165	148
	平均価格（円/kg）	414	242	326	316	280	349
県内産	入荷量（t）	98	97	82	78	88	65
	平均価格（円/kg）	385	153	282	257	192	305

5　ほうれんそう

（1）作付面積，出荷量

ほうれんそうの作付け面積は，全国・県内とも減少傾向が続いている。特に県内では平成15年から16年にかけて45ha以上の激減がみられた。

県内の平成16年の出荷量は，平成7年比で64%となっている。

表2-9-9　ほうれんそうの作付面積と出荷量推移

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積(ha)	27,000	25,200	24,700	24,400	24,300	23,800
	収穫量(t)	360,400	316,400	319,300	311,800	311,800	288,600
	出荷量(t)	287,600	250,100	254,100	249,600	251,000	231,800
宮城県	作付面積(ha)	618	567	572	569	553	507
	収穫量(t)	7,640	6,950	6,980	6,610	6,650	5,280
	出荷量(t)	5,080	4,450	4,670	4,410	4,390	3,230

（2）入荷量，販売価格

仙台市場における県内産ほうれんそうのシェアは夏期の低い時期でも80%を越えており，北海道産，青森県産が一部入荷しているが，平均では100%に近く地場志向の品目となっている。

価格は，入荷量が少ない夏期に最も高くなり，低い時期との価格差は倍以上となる。

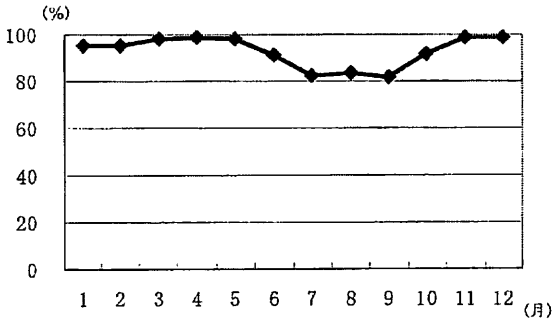

図2-9-9　ほうれんそうの月別県内産シェア推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

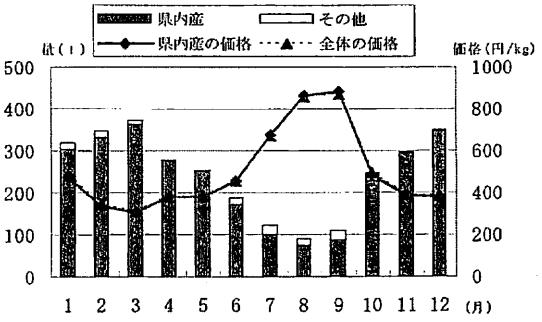

図2-9-10　ほうれんそうの月別入荷量と単価推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

表2-9-10　ほうれんそうの入荷量と平均価格の推移（仙台市中央卸売市場）

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全体	入荷量（t）	3,625	3,135	3,170	3,088	3,101	2,349
	平均価格（円/kg）	422	432	427	388	390	513
県内産	入荷量（t）	3,555	3,041	2,984	2,944	2,914	2,223
	平均価格（円/kg）	423	424	417	377	382	501

6　ねぎ

（1）作付面積，出荷量

ねぎの作付面積は，全国で減少している。県内では平成13～15年にかけて減少したが平成16年には微増している。

県内の平成16年の出荷量は，平成7年比で85％となっている。

表2-9-11　ねぎの作付面積と出荷量推移

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積(ha)	24,600	25,100	24,400	23,900	23,600	23,500
	収穫量(t)	533,500	536,700	526,800	518,700	514,600	485,100
	出荷量(t)	406,400	415,900	406,100	401,800	396,700	374,600
宮城県	作付面積(ha)	574	553	543	544	541	550
	収穫量(t)	8,020	8,040	7,860	7,440	7,410	7,090
	出荷量(t)	5,040	5,060	4,950	4,610	4,410	4,310

（2）入荷量，販売価格

仙台市場における県内産ねぎのシェアは，露地冬まき，春まきの分が出回る８月以降は50％近くになるが，冬から夏にかけては40％を割っている。

価格は，全体としては入荷量が少ない５～６月が高いが，県内産はこの時期低価格となっている。

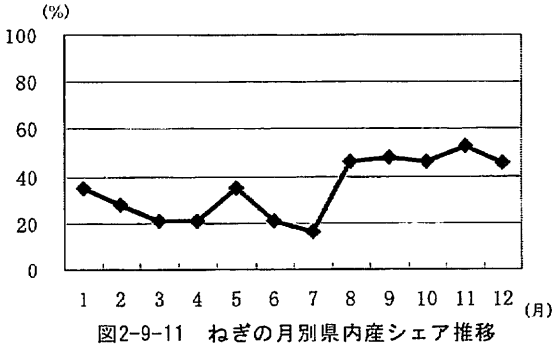

図2-9-11　ねぎの月別県内産シェア推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

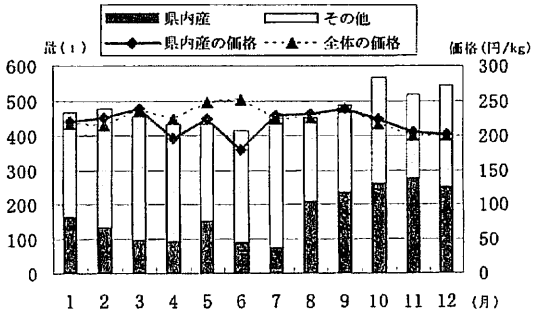

図2-9-12　ねぎの月別入荷量と単価推移
（平成12～16年平均：仙台市中央卸売市場）

表2-9-12　ねぎの入荷量と平均価格の推移（仙台市中央卸売市場）

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全体	入荷量（t）	5,433	5,378	5,506	5,633	5,992	6,013
	平均価格（円/kg）	223	202	223	230	227	233
県内産	入荷量（t）	2,119	2,209	2,213	1,928	1,917	1,875
	平均価格（円/kg）	204	190	210	231	223	237

7　参考附表（その他の品目）

表2-9-13　作付面積・収穫量・出荷量

なす

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	14,600	13,300	12,800	12,400	12,000	11,700
	収穫量（t）	478,400	476,900	448,000	432,300	395,800	390,700
	出荷量（t）	343,700	352,500	327,700	317,200	292,700	291,000
宮城県	作付面積（ha）	329	308	294	285	273	268
	収穫量（t）	4,290	4,370	4,090	4,020	3,230	3,680
	出荷量（t）	1,960	2,360	2,070	2,050	1,500	1,820

とうもろこし

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	33,300	29,200	28,600	28,300	27,700	26,900
	収穫量（t）	319,600	289,200	273,100	278,100	267,600	265,500
	出荷量（t）	245,200	218,100	205,500	210,800	203,800	204,400
宮城県	作付面積（ha）	964	830	798	740	711	692
	収穫量（t）	4,850	4,010	4,020	3,510	3,090	3,280
	出荷量（t）	1,320	932	1,000	790	716	831

えだまめ

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	128,000	12,700	12,400	12,300	12,800	13,100
	収穫量（t）	79,100	80,800	77,500	75,200	76,800	73,100
	出荷量（t）	51,400	52,500	49,900	48,400	49,900	48,800
宮城県	作付面積（ha）	394	389	380	371	361	366
	収穫量（t）	1,760	1,660	1,650	1,460	1,320	1,560
	出荷量（t）	713	745	755	626	541	714

キャベツ

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	39,300	36,900	35,800	34,900	34,400	33,200
	収穫量（t）	1,544,000	144,900	1,435,000	1,392,000	1,376,000	1,279,000
	出荷量（t）	1,314,000	1,225,000	1,219,000	1,197,000	1,179,000	1,100,000
宮城県	作付面積（ha）	399	342	328	329	327	318
	収穫量（t）	8,080	6,470	6,470	6,410	6,560	6,360
	出荷量（t）	4,580	3,450	3,790	3,760	3,980	3,840

はくさい

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	25,700	22,700	22,000	21,400	20,700	20,200
	収穫量（t）	1,163,000	103,600	1,038,000	1,005,000	964,500	886,400
	出荷量（t）	865,500	779,900	780,100	767,100	727,500	672,000
宮城県	作付面積（ha）	856	706	680	659	638	614
	収穫量（t）	18,200	14,300	14,100	13,300	13,700	11,700
	出荷量（t）	8,050	5,580	5,820	5,570	5,410	4,480

なばな類

		H8	H10	H12	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	1,190	1,298	1,275	1,280		
	収穫量（t）	11,001	12,549	12,513	13,264		
	出荷量（t）	9,932	11,541	11,480	11,543		
宮城県	作付面積（ha）	36	30	29	33		
	収穫量（t）	470	370	377	316		
	出荷量（t）	418	338	334	279		

平成８～14年は野菜生産状況表式調査

しゅんぎく

		H8	H10	H12	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	2,166	2,045	1,858	2,430	2,430	2,580
	収穫量（t）	39,111	35,674	31,840	41,900	41,300	41,200
	出荷量（t）			28,104	34,600	34,200	32,700
宮城県	作付面積（ha）	64	65	67	76	75	73
	収穫量（t）	1,568	1,469	1,296	1,330	1,270	1,120
	出荷量（t）			1,239	1,090	1,040	910

平成８～12年は野菜生産状況表式調査

にら

		H8	H10	H12	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	2,084	1,943	2,055		2,010	2,180
	収穫量（t）	67,259	62,337	61,680		62,100	61,600
	出荷量（t）	61,628	55,788	56,524		56,600	54,400
宮城県	作付面積（ha）	62	52	59		53	53
	収穫量（t）	1,393	1,080	1,210		981	881
	出荷量（t）	1,079	947	1,094		773	667

平成８～12年は野菜生産状況表式調査

たまねぎ

		H7	H12	H13	H14	H15	H16
全国	作付面積（ha）	27,000	26,900	26,000	25,400	23,500	23,100
	収穫量（t）	1,278,000	1,247,000	1,259,000	1,274,000	1,172,000	1,125,000
	出荷量（t）	1,083,000	1,072,000	1,085,000	1,042,000	1,025,000	974,200
宮城県	作付面積（ha）	226	2,290	225	219	217	199
	収穫量（t）	4,160	3,480	4,800	5,110	4,410	4,260
	出荷量（t）	2,100	3,280	2,850	3,260	2,600	2,370

表2-9-14　仙台市中央卸売市場における野菜月別取扱推移（平成16年）

なす

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	162	226	251	378	405	441	500	457	370	206	147	133	3,677
	平均価格（円/kg）	431	360	342	260	262	295	196	165	251	410	437	412	283
県内産	入荷量（t）	4	6	11	21	43	94	142	143	122	59	17	6	667
	平均価格（円/kg）	507	457	420	357	345	368	204	159	263	371	444	493	273

とうもろこし

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	1	3	8	8	89	502	655	412	119	2	0	0	1,797
	平均価格（円/kg）	457	223	352	359	356	237	171	150	203	182	326	317	198
県内産	入荷量（t）	0	0	0	0	0	2	151	64	0	0	0	0	218
	平均価格（円/kg）	0	0	0	0	0	233	157	101	179	184	175	147	141

えだまめ

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	0	0	0	1	12	42	170	182	105	22	0	0	534
	平均価格（円/kg）	0	2,835	505	433	849	712	426	341	334	262	158	378	404
県内産	入荷量（t）	0	0	0	0	0	1	128	158	86	21	0	0	393
	平均価格（円/kg）	0	0	0	0	0	756	411	294	296	250	158	378	331

キャベツ

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	642	541	460	680	915	837	1,008	977	1,019	1,336	1,188	832	10,435
	平均価格（円/kg）	83	87	94	82	68	89	77	71	71	114	141	105	92
県内産	入荷量（t）	31	21	11	8	203	338	216	16	121	377	439	122	1,903
	平均価格（円/kg）	59	60	55	56	47	78	66	56	68	123	141	107	97

はくさい

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	575	526	502	495	488	510	463	640	984	1,134	965	1,001	8,283
	平均価格（円/kg）	49	69	98	74	62	63	75	79	81	114	75	56	77
県内産	入荷量（t）	350	247	188	18	65	173	10	0	4	244	783	690	2,771
	平均価格（円/kg）	41	59	81	72	65	56	23	0	57	123	73	55	67

つぼみな

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	34	77	58	16	3	0	0	0	1	5	10	17	221
	平均価格（円/kg）	512	384	326	168	139	147	0	263	248	401	388	345	366
県内産	入荷量（t）	34	77	58	16	3	0	0	0	1	5	10	17	221
	平均価格（円/kg）	512	384	326	168	139	147	0	263	248	401	388	345	366

ブロッコリー

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	163	160	186	143	155	179	150	121	145	198	213	183	1,996
	平均価格（円/kg）	272	298	306	329	288	255	277	276	352	334	256	243	289
県内産	入荷量（t）	12	3	6	24	57	51	1	0	14	66	106	23	363
	平均価格（円/kg）	258	285	249	441	338	243	97	276	303	294	256	253	288

しゅんぎく

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	69	62	48	25	17	19	13	11	22	34	55	75	450
	平均価格（円/kg）	643	395	368	452	693	455	539	990	739	868	521	448	542
県内産	入荷量（t）	68	62	48	25	16	18	12	10	21	33	53	72	439
	平均価格（円/kg）	644	395	367	452	694	446	536	993	736	873	527	452	542

にら

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	111	128	155	131	153	120	108	85	88	98	84	93	1,356
	平均価格（円/kg）	604	597	353	326	195	217	295	398	458	578	665	591	421
県内産	入荷量（t）	18	19	36	48	119	101	84	56	68	55	12	13	629
	平均価格（円/kg）	600	538	381	329	185	208	278	376	444	528	633	599	338

たまねぎ

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
全体	入荷量（t）	1,780	1,492	1,685	1,774	1,827	1,636	1,792	1,464	1,462	1,643	1,772	1,969	20,297
	平均価格（円/kg）	72	84	97	98	91	76	77	80	76	75	74	74	81
県内産	入荷量（t）	0	2	1	2	12	153	713	393	46	9	8	0	134
	平均価格（円/kg）	63	55	95	71	71	59	54	56	69	82	66	89	56

8　研究事例紹介１（パプリカの消費動向とニーズの把握）

（１）パプリカの取扱量と価格

仙台市中央卸売市場における取扱数量は平成15年に一時的に減少したものの，平成16年には回復し全体的には微増している。1990年代にオランダから輸入が開始されて以来，急速に国内需要と輸入が拡大してきている。近年では，輸入国の第一位は韓国であり，平成14年には日本のパプリカ（市場での取り扱い時の品目名は「ジャンボピーマン」）の輸入量22,465ｔのうち韓国からの輸入が54.7%を占めている。

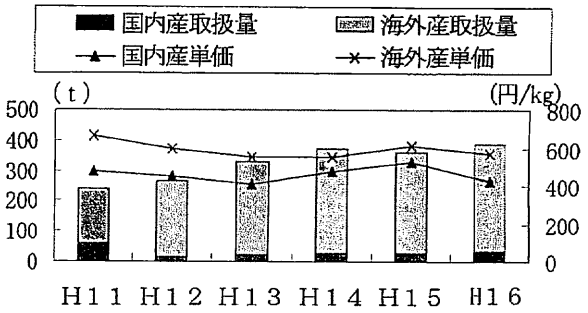

図2-9-13　仙台市中央卸売市場におけるパプリカ（ジャンボピーマン）の取扱数量と単価

価格は全体的に低下している。海外産に比べ国産の単価が低い要因は，国産パプリカの産地がほとんどなく，入荷量が不安定であるため，安定した価格に結びついていない（市場ヒアリング調査結果より）。海外産は商社経由で定量確保ができるため，価格も安定している。

（２）消費者の認知度と購買行動

パプリカは近年購買する機会が増えた野菜として上位に入っており，よく購入されるようになってきているといえる（表2-9-15）。

表2-9-15　近年購買する機会が増えた野菜について

NO	品　目	回答者数
1	水菜	55
2	ブロッコリー	50
3	パプリカ	25
4	エリンギ	18
5	ちんげん菜	17
6	ゴーヤ	14

注１）H16年度仙台市内消費者234名へのアンケート調査による
注２）自由記述，複数回答での回答数が多かった品目を上位より掲載

一般的に生協組合員は安全性を重視し，国産品を好む傾向にあると言われており，生協組合員と一般消費者との属性別に認知度や購買動向の違いをアンケートにより比較した。

○生協組合員と一般消費者の回答に差がなかった項目

回答者のうちどちらも，ほぼ100%の人がパプリカを食べたことがあり，その購入場所は約９割がスーパー等の量販店，続いて八百屋，デパートである。購入する際のスタイルは「ばら売り」が８割の人に好まれている（データ略）。パプリカの購入理由は「彩り」が最も多い。また，購入する色は，数色まとめて買う人が全体の２割，単色で買う人は残り８割，色の割合は赤：黄：オレンジ＝７：２：１である。「どんな食べ方をしているか」は「サラダ」46%，「炒め物」30%，「その他」23%，「その調理の情報源」は「テレビ」29%，「新聞・雑誌」26%，「スーパー」14%である（データ略）。

表2-9-16　パプリカの購入理由（複数回答）

	彩り	栄養面	おいしそう	その他
一般消費者	78	45	30	11
生協組合員	79	60	20	9

注）H16年度消費者120名，生協組合員109名へのアンケート調査による

○生協組合員と一般消費者の回答に差があった項目

パプリカがピーマンより栄養面で優れていることを知っている人が多いのは生協組合

員である（データ略）。また，購入頻度も生協組合員の方が多い。

表2-9-17　パプリカの購入頻度

	今までに数回	月に一度	数週間に一度	1週間に一度	その他	χ^2
一般消費者	54	22	19	9	2	10.62*
生協組合員	35	17	21	23	7	

注1）表2－9-16注）に同じ
注2）*は5％水準で有意。

（3）消費者の県産品パプリカに対するニーズ

コンジョント分析※により解析した結果，生協組合員，一般消費者ともに，「産地」，「価格」，「大きさ」の順で重視しており，特に生協組合員は「産地」を重視している割合が高い。また，「産地」の項目の中では「県内産」を重視している割合が生協組合員，一般消費者とも大きく，県産品パプリカのニーズが非常に高い。パプリカを購入する際に重視する項目の組み合わせは，生協組合員，一般消費者ともに「県内産」，「100円／個」，大きさは「大きい」である（図2-9-14，15）。

※コンジョイント分析：商品などの「もの」全体に対する回答者の好き嫌いの評価から「もの」を構成する各要因の評価を推定する1手法である。本調査では，パプリカを構成する要素（3属性，2～3水準）を直行配列によって9種類に組み合わせ，アンケートに記載した組み合わせ説明図の選択順位を基に，各属性の重要度と効用値（プラスの数値は購買意欲が大きい）を解析した結果である。

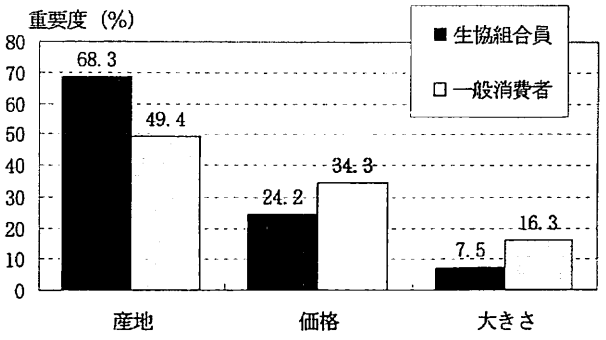

図2-9-14　パプリカを購入する際に重視する項目について（コンジョイント分析　属性別重要度）

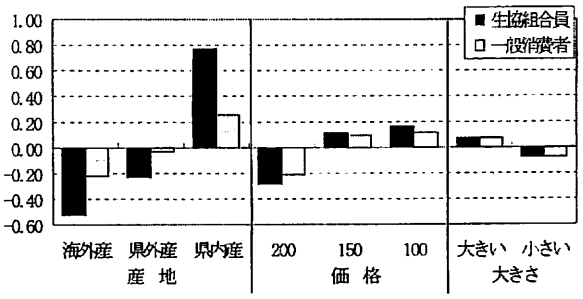

図2-9-15　各項目の中での選好割合（コンジョイント分析　部分効用値）

（4）今後の生産・販売方向

パプリカの品種選定にあたっては，大きめの品種よりもある程度の大きさで数が取れるような品種を栽培し，消費者が購入しやすい価格設定に対応することが重要である。また，他の野菜にない特徴としてパプリカは多彩な色が魅力と消費者は答えており，色ごとの作付け割合については今回の消費者の購買行動を参考にできる。

パプリカは輸入先行の状況で，県産品を好む売り先を的確に見つけて供給することが重要であると考えられる。生協などの産地へのこだわりの重要度が高いマーケットは，販売先として非常に有望であることがわかる。現状では，海外産が主流のマーケットだが，生協組合員以外の一般の消費者も国産品を非常に望んでいることがわかるので，今後国産品がシェアを取れる可能性は大きい。

9　研究事例紹介２（夏秋どりいちごの消費者と実需者のニーズ把握）

（１）消費者の夏秋どりいちごに対するニーズ

いちごは県内の園芸品目で第１位の生産額を誇り，消費者にもなじみが深い。いちごを食べないという人はほとんどなく，ケーキのデコレーションでも欠かせないものとなっている（表2-9-18，表2-9-19）。

産地については，国産品と輸入品が両方販売されている場合，国産品しか買わないという意見が多く（74%），国産志向が強い。また，他県産と宮城県産との比較では，県内産しか買わないという回答は31%であり，同じ価格なら県内産を購入するという回答（37%）と合わせるとニーズは高い。したがって，より一層の地場産のメリットを活かした生産と販売対策が必要である。

購入時に提供される情報としては，糖度のような品質を確認できる情報のほかに農薬の使用程度など安全性を確認できる情報を望む声も多く聞かれている（表2-9-20）。

表2-9-18　果物の中でいちごを食べる頻度について

	回答数
よく食べる	111
たまに食べる	48
あまり食べない	1

（消費者アンケート②調査結果）

表2-9-19　ケーキでのいちごの位置づけについて

	回答数
ケーキにいちごがないと不満	40
できればいちごがあった方がいい	84
いちごが特になくてもいい	26
いちごは入っていない方がいい	3
その他	7

（消費者アンケート②調査結果）

表2-9-20　購入に前向きになる情報について（複数回答）

	回答数
糖度（甘さ）	60
農薬の使用程度	38
収穫日	29
試食で味が確認できる	28
産地の紹介	25
品種の特徴	15
化学肥料の使用程度	14
産地の紹介	12
生産者のいちご作りへの思い	8
その他	1

（消費者アンケート①調査結果）

（２）実需者のニーズと利用実態

国産いちごの生産量は，夏秋期に極端に少なくなる。よって，夏秋期のニーズ把握を中心に菓子店に対しアンケート調査を実施した。

産地については，国産夏秋どりいちごが欲しいという回答が多くニーズは高かったが，「品質と価格が折り合えば欲しい」という回答が最も多く，国産品の購入にもある程度の条件が付されていた（図2-9-16）。

外国産のいちごについては，夏秋期に「購入しようと思わない」という回答が全般に多く，特に個人自営店で多く見られた（図2-9-17）。

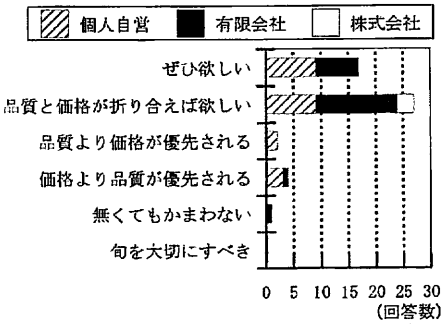

図2-9-16　国産夏秋どりいちごのニーズ

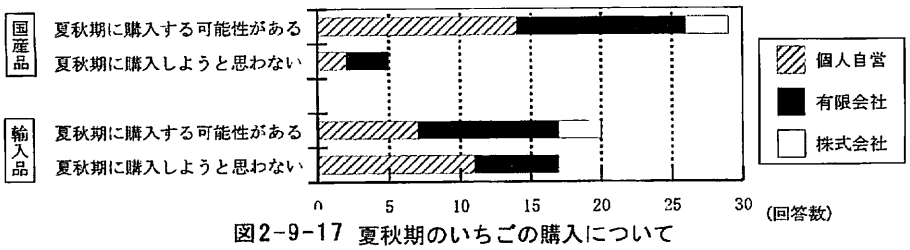

図2-9-17　夏秋期のいちごの購入について

品質条件では，最も重視するものは「鮮度（新鮮)」で，次に重視するものは「色づきの揃い」「日持ち」であり，ケーキ需要では見た目や日持ちも重要視されている（図2-9-18)。

サイズについては，Mサイズのニーズが最も多く，Lは２番目に欲しいサイズとして選んだ人が多い（図2-9-19)。

菓子店の主ないちごの仕入れ先は，青果物専門販売店，仲卸業者，スーパー等量販店が大半を占めており，量販店からの仕入れは，仕入れ先の順位で２位，３位としての回答が多く，少量不足時に近隣の量販店から購入している傾向が見られる（データ略)。

冬春期は，国産品が大半のシェアを占め，夏秋期は，外国産がシェアのほぼ半数を占めている。仕入れ価格は，国産が外国産と比較して１パック（300g）当たり250～300円高い。利用されている国産品種は「雷峰」が多く，外国産の産地は，アメリカ産が大半である（データ略)。

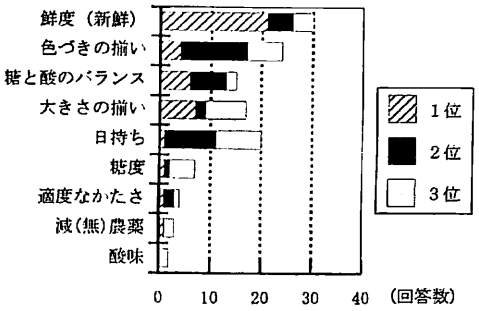

図2-9-18 求めているいちごの品質条件

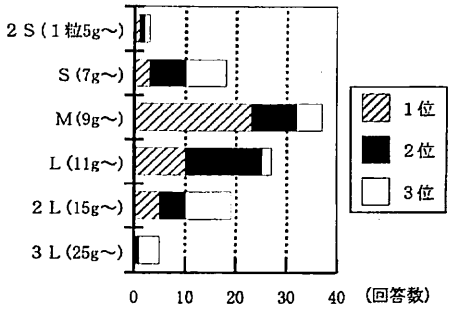

図2-9-19 求めているサイズ

購買反応曲線*による希望購入価格調査の結果，夏秋どりいちごの購買確率が最も高くなる価格は，１パック当たりで国産品が630円（購買確率50%以上の範囲が370円～980円)，輸入品が600円（370円～870円）である。国産品と輸入品の希望価格差は小さく，価格競争へ向けた努力も必要である。

*購買反応曲線は，「これ以上高い場合購入しない価格」と「これ以上安いと品質に不安があるため購入しない価格」を聞いて，最も購入する確率が高くなる価格を算出するものである。

（３）今後の生産・販売方向

消費者は，国産（県内産）いちごを望んでいるが，県内産の消費を拡大するためには，糖度などのわかりやすい品質の目安や安心感を与える情報を提供するなど，より進んだ商品の差別化が必要となる。

実需者は，夏秋期に生産量が少なくなるため，夏秋どり国産いちごへのニーズが高い。重視する鮮度についても，輸送距離が短いことが活かせるなどのメリットがあるため，県内産いちごの生産拡大が期待される。しかし，実需者は，サイズや色づきの揃いに対する要求が強いこと，価格面での制約があることなどに注意を要する。

消費者対象のアンケートは，①いちご狩り参加者対象（平成15年4月実施，有効回答数80）及び②みやぎまるごとフェスティバル来場者対象（平成15年10月実施，有効回答数160）の調査結果である。
実需者対象のアンケートは，仙台市及び周辺市町の洋菓子店を中心に郵送で調査した結果である（平成16年２～３月実施，有効回答数46)。